

発行所  
**石川県保険医協会**  
 〒920-0853 金沢市本町2丁目11番7号  
 金沢フコク生命駅前ビル7階  
 ☎(076)222-5373番 FAX(076)231-5156番  
 URL <http://ishikawahokeni.jp/>  
 E-mail ; [ishikawa-hok@doc-net.or.jp](mailto:ishikawa-hok@doc-net.or.jp)  
 発行人 三宅 靖  
 印刷所 ソノダ印刷株式会社  
 購読料 1年間 5,000円(〒共)  
 (\*本紙の購読料は会費に含まれます)

# 石川保険医新聞

## 主な記事

- 2面 歯科よろず相談会
- 3面 小児科医からの発信
- 4面 速報中医協資料
- 5面 憲法を生きる

今月の会員数 / 1,002人(医科700人・歯科302人)

## 医療・福祉のエキスパート訪問……《第23回》

### 薬剤師・薬事の幅広い知識

薬剤師

【取材先】中西剛明さん(城北診療所 薬剤師)  
 【取材】医療福祉部取材班

#### 医薬分業で勤務先が変化

今回は、薬剤師の中西剛明さん取材しました。病院薬局、保険薬局、薬の購入経験など、薬剤師として幅広く経験され、保険医協会でも講演いただいたことのある方です。取材を始める

どうかという考えが取材班全員の脳裏に浮かぶほどです。薬剤師の主な就職先は時代とともに変わっていき、1993年頃からの医師の流儀が大きな変換点になり、それまで製薬企業、公務員や大学に残ることに、問題があれば薬剤師法24条を根拠に「疑義照会」を行います。法的には、疑義が解決しない限り調剤を完了できません。医師も療養担当規則で薬剤師の意見をしっかりと聞くこととされています。日数など細かい間違いの訂正が、一番多いのですが、腎機能や体重から勘案すると今の用量でいいのだろうか？など薬学的な疑義もあります。聖路加病院など処方箋に検査値が記載されている医療機関もあるそうです。

中西剛明さん(写真中央)と取材班の大川義弘副会長(写真右)、平田米里副会長

保険薬局での薬剤師の業務は、第一に医師から出た処方箋を、内容通りに調剤すること、第二に処方内容の妥当性と薬学的判断をすること、問題があれば薬剤師法24条を根拠に「疑義照会」を行います。法的には、疑義が解決しない限り調剤を完了できません。医師も療養担当規則で薬剤師の意見をしっかりと聞くこととされています。日数など細かい間違いの訂正が、一番多いのですが、腎機能や体重から勘案すると今の用量でいいのだろうか？など薬学的な疑義もあります。聖路加病院など処方箋に検査値が記載されている医療機関もあるそうです。

大きな社会問題となつてきている医薬品供給不足については、「日本はこれまで一定の品質レベルの薬が自由な流通している奇跡的な国だった。ただギリギリの提供体制だったので、小林化工の他薬混入事件や日医工の相次ぐ製造中止などで蟻の一穴があった」。先発品メーカーが後発品メーカーに先発品を作らせ製造委託の実態など複雑

また、薬事についても大切で、薬の採用に関して薬事承認の過程を熟知してその薬が本当に現場に必要なか判断すること、経営的な視点で、高い薬価の薬剤

#### 医薬品供給不足

大きな社会問題となつてきている医薬品供給不足については、「日本はこれまで一定の品質レベルの薬が自由な流通している奇跡的な国だった。ただギリギリの提供体制だったので、小林化工の他薬混入事件や日医工の相次ぐ製造中止などで蟻の一穴があった」。先発品メーカーが後発品メーカーに先発品を作らせ製造委託の実態など複雑

「2、3社が作る原薬を複数のメーカーが加工している。ほぼ差は無いので、効果に差異があるという。薬剤管理指導料などしか評価がないこと、さらに困難な点として、病院薬剤師は患者と退院後の関わりが限られていることも課題として挙げられました。

で、かつ表向きにはなっていない話が語られ取材班はウーンという感じ。「原材料が入ってこない」、「影響が将棋倒しのようになっており、回復に時間がかかると、「先発品メーカーが医師を果たさず、営利主義に陥っている」ことも指摘されました。

「2、3社が作る原薬を複数のメーカーが加工している。ほぼ差は無いので、効果に差異があるという。薬剤管理指導料などしか評価がないこと、さらに困難な点として、病院薬剤師は患者と退院後の関わりが限られていることも課題として挙げられました。

先発品と後発品の効果の差について尋ねると

「2、3社が作る原薬を複数のメーカーが加工している。ほぼ差は無いので、効果に差異があるという。薬剤管理指導料などしか評価がないこと、さらに困難な点として、病院薬剤師は患者と退院後の関わりが限られていることも課題として挙げられました。

## 2040年問題と地域医療・在宅医療

～ニーズに応えることから見えてくる、今、そしてこれからの地域・在宅医療(仮)



講師 佐々木 淳氏  
 医療法人社団悠翔会  
 理事長・診療部長

2023年11月12日(日)  
 午前9時30分～午前11時30分

- 会場：石川県立図書館 研修室
- 対象：どなたでも
- 参加費：無料

詳細・申し込みは同封の案内チラシをご覧ください

## 医心凡話

この8月、9月と短期の入院生活を送ることとなった。もともとは旧盆の時期に診療をして9月初めには旅行に出かけるはずであった。ところが8月15日の診療中に腹痛を認め、尿が赤褐色となった。何とか診療を終えて翌朝受診すると予想通り「総胆管結石・胆管炎・胆嚢結石」という診断であった。即日入院となり内視鏡的に乳頭切開のうえ総胆管結石を取り出していただいた。その後は期待的に胆嚢摘出が必要となり、旅行に行くはずだった日程の再入院となった。

お世話になったのは私が多くの患者さんを紹介しており、また7年前には自分が大病を患い約4カ月間入院した病院である。案内定、病室のネームプレートには見覚えのあるお名前が複数あった。また7年前にお世話になったスタッフにも何人かお会いした。さらには私が開業し、小学校低学年のころから診ていた姉妹が立派な看護師さんとなり、私の入った病棟のスタッフとなつていてそれぞれにあいさつしていた。私は「この子たちのお世話になる日が来たか」と思いつつ、20年以上やっているといふことがあつた。いつまで今の仕事を続けられるかや心もとならないが、できることならばもう少しいろいろな経験をしてみたいものだと思いを新たにしたい。